

2022/10/18 久喜市教育研究会  
総合的な学習の時間研究会

## カリキュラム・マネジメントの中核としての 「総合的な学習の時間」

文教大学教育学部  
浅野信彦  
nasano@bunkyo.ac.jp

1

### 「カリキュラム」の定義

- 語源はラテン語の「クレレ」(currere)。
- 走路⇒人生の来歴⇒履歴書
- 欧米では、カリキュラムは「教育計画」だけでなく、それに基づく教師の働きかけと子どもの活動の全てを包括する概念である。
- 一般に「**学習経験の総体**」と定義される(OECD-CERIなど)。
- 学校で提供される教育内容を子ども自身が主体的に意味づけ、自らの経験を再構成していく側面を視野に入れている。
- 子ども一人ひとりの「学び」のプロセスや、それを通して「結果的に何が身に付いたか、何ができるようになったか」を問う視点が含まれる。

2

## 各学校で授業改善の努力が重ねられているが、 あと一步、乗り越えられない壁がある

- 各教科や総合的な学習の時間の授業の中で、子どもたちは教師に与えられた課題を一定の手順に従って解決しているだけで、課題を自分ごととして捉え、試行錯誤しながら本質に迫っていく姿があまり見られない。**(探究的な学びの必要性)**
- 授業の中で子どもが自らの考えを表現したり、伝え合ったりする場面は増えている。しかし、教師は子どもの多様な思考を事前に計画した「まとめ」に収束させようとするため、子どもの表現の背後にある経験や思いを引き出したり、一人ひとりの言葉をつなげて深く本質に迫っていく授業にはなっていない。**(対話的な学びの必要性)**
- 子どもたちが課題に向き合ったり活動を積み重ねたりする中で、「もっとこうしたい」という思いや願いをもったとき、それをもとに単元計画を修正したり、その子どもの思いを次の単元構想につなげようという発想をもたない教師がいる。**(子どもの自己決定から主体的な学びへの道筋がイメージできない)**

3

## 「総合的な学習の時間」とカリキュラム・マネジメント

- 1998（平成10）年 学習指導要領改訂
  - 「生きる力」の育成を目指す
  - 「総合的な学習の時間」の創設
- 2008（平成20）年 学習指導要領改訂
  - 基礎的・基本的な知識・技能の「習得」と「活用」を重視
  - 「総合的な学習の時間」を中心に「探究活動」の充実を図る
- 2017（平成29）年 学習指導要領改訂
  - 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す
  - 教科等の縦割をこえて教育課程を見なおす「教科等横断的な視点」を重視
  - 子どもの資質・能力の育成を目指し「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面を重視

4

4

## 小学校学習指導要領 第5章 総合的な学習の時間（抜粋）

第1目標 **探究**的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) **探究**的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、**探究**的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) **探究**的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

第2 各学校において定める目標及び内容

3. 各学校において定める目標及び内容の取扱い

- (4) 各学校において定める内容については、目標を実現するにふさわしい**探究**課題、**探究**課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。
- (5) 目標を実現するにふさわしい**探究**課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。
- (6) **探究**課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。  
ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。  
イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの**探究**的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。  
ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。
- (7) 目標を実現するにふさわしい**探究**課題及び**探究**課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮すること。

5

## 「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面

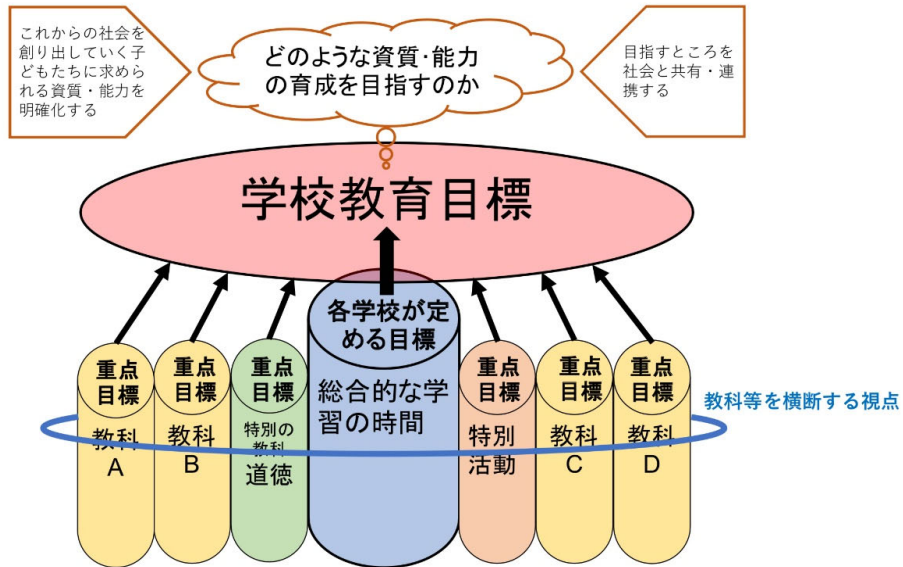
- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育の内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の実情等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCA【Plan（計画）→Do（実施）→Check（評価）→Action（改善）】サイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

6

6

# 学校教育目標を踏まえた教育課程の構造化

学校教育目標と  
教育課程の全体構造



7

7

2020年11月

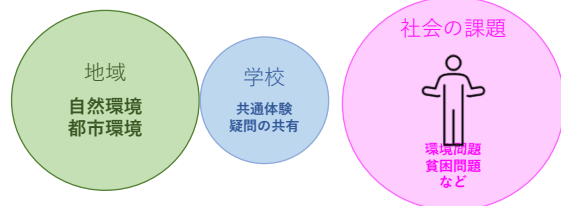
## 4年生 総合的な学習の時間「守ろう大切な水・命！」

学校のビオトープと身近な川にいる生き物を捕まえてリストにまとめた子どもたち。疑問に思ったことを話し合っ「水」に関する問いを設定させることを意図した授業。

T: 今日、「なぜだろう」「不思議だな」と思ったことを、どんどん話し合っほしいと思います。それでは始め!

C1: 先生、課題は何?

T: 先生はね、課題は出しません。自分たちで考えてみて。不思議だんっこと見つけたでしょ。自分たちで考えてみて。



T: (グループの話し合いを聞きながら) 今、魚のこと出てるけど、環境についてはどうなの?

C2: ビオトープには藻が多いけど、川には植物が少ない。

C3: 藻がなくなると生き物が隠れる場所や卵を産む場所がなくなるよね。

C4: 植物が少ないと隠れる場所が少ないから、あまり環境がよくない。

8

2021年6月

### 6年生 理科「人や動物の体のつくりと働き」

人や他の動物の体のつくりと働きを理解し、観察や実験などに関する技能を身に付けてきた子どもたち。これらの知識・技能を活用して「笑える何かを生み出す」活動を行う。一人ひとりの自己決定を大切に、創造的思考を育むことを意図した授業。

T：（板書）獲得した人体の知識を使って自分で企画をデザインし、発表用に生み出そう。

C1：臓器一つひとつをキャラクターにする！

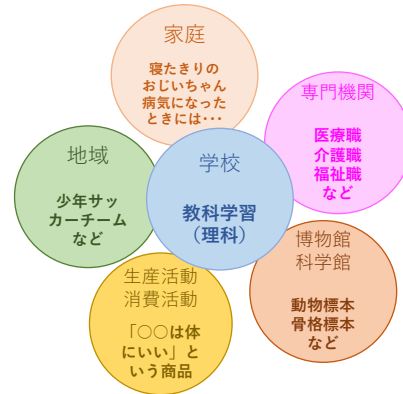
C2：福笑いをつくる！人の臓器のイラストを使って臓器の場所を覚えやすくする！

C3：（クイズを作っている）でんぷんを〇〇に変える。〇〇とは何でしょう？

子どもたちが作り始めたもの

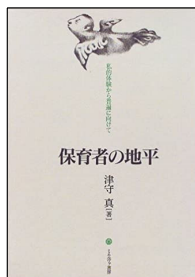
- ・クイズ
- ・福笑い
- ・アニメをもとにした細胞の物語 など

- ・ 子どもたちが既習の「人や動物の体のつくりと働き」に関する知識を活用して何かを創造するためには、**個々の子どもの生活経験や興味関心、潜在的な願いやこだわりから、子ども自身が「問い」を見出すプロセス**を大切にする必要がある。
- ・ つまり、課題設定に関する子どもたちの「**自己決定**」を促し、はげます。教師のペースで進めようとすることが、自己決定の妨げになる場合もある。



## 「個の学び」ということ

- ・ 「個別」でも「個性」でもない、「**個**」という地平に立つことで見えてくる「**学び**」の世界がある。
- ・ 一人ひとりの学びの姿から、**その子なりの選択やこだわり、感動や葛藤、思いや願いなどの内的変化**を捉えようとする教師の姿勢によって、その世界は開かれる。
- ・ そこには混乱や停滞の時期があり、予測を超えた飛躍の瞬間もある。



津守真『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』ミネルヴァ書房,1997年

子どもが自分の意志で自由に選択し、自分から発動して何かをなしたとき、その子どもは堂々として自信があり、幼くとも一人前の成熟した人間の風格がある。それぞれの時期に**小さな世界に、それなりの成熟があり、将来に開いていく小さな核がある**。（中略）人間の内部のものでありながら、社会をつくるのに大切な価値である。**内部にそれを育てられている人は、社会を展開させる人である**。（121頁）

一つひとつの具体的場面で、子どもの行動を、**慣習的な大人の目で見ること**を意識的に止めて、**子ども自身の表現として見る**ことに転換する作業である。（中略）このことが意識的課題となるとき、保育の場は**子どもが主体として生活する場**となるであろう。（220頁）

## 仲間と支え合いながら「個の学び」を深めていく 資質や能力を段階的に育てていく

- そのためには各学年の探究課題と重点を整理する必要がある。下記は一案。

**6年生** 個人プロジェクトの企画と実践。

**5年生** 大枠としての共通テーマのもとで、個々の子どもが「自分事」として具体的な課題を見出し、多様な「見方・考え方」を働かせながら教科横断的に探究する。共同探究を個の探究に発展させていく。

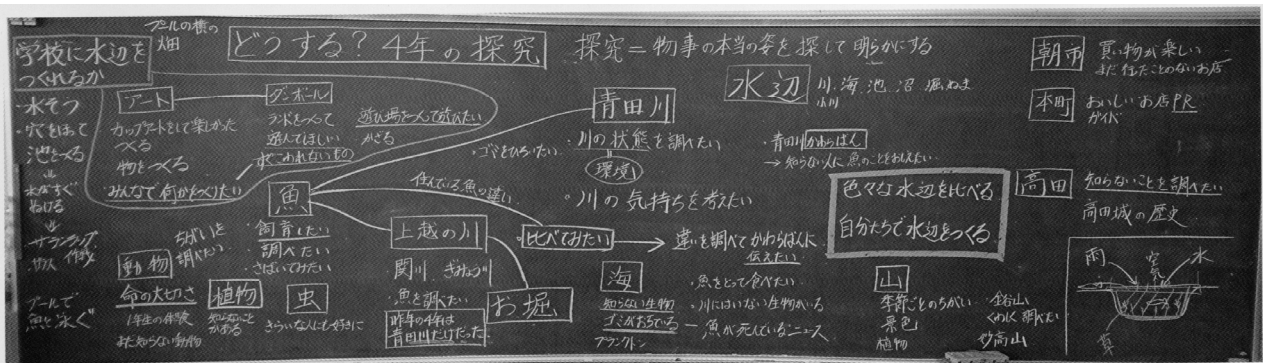
**4年生** 身近な自然や地域の課題に対して、体験活動を重ねたり地域の人々や専門家と出会ったりし、その振り返りや「自分たちはどうしたいのか」についての話し合いを繰り返しながら、みんなの願いや思いを共有していく。学級全体またはグループで力を合わせて活動を計画し実践する。

**3年生** 子どもたちの興味関心にもとづく課題に対して、ものづくりや交流活動、イベントなどをアイデアを出し合って企画し実践する。子どもたちの気づきや思いを発信するために多様な表現活動を展開する。

**1・2年生** 「遊びを通しての学び」から「自覚的な学び」への移行を促し、探究的な学びの土台を育む。

11

子どもたちに問いを投げかけ、多様な意見を引き出しながら「話し合い」を組織することは、教師の重要な役割です。



上越市立大手町小学校4年生「比べて発見、私たちの水辺」  
学年最初の「総合」の時間の板書（2019年度）

12